

10/28-11/3#8 キリストは仮庵の祭りであり、また信者たちから生ける水の川々として流れ出るその霊である **BirdsEyeView** 私たちはキリストを仮庵の祭りとして享受することができます **レビ23:39** そして、あなたがたは地の産物を集め終わった第七の月の十五日から七日間、エホバの祭りを守らなければならない。その一日目は完全な安息であり、また八日目も完全な安息である。43 それは、私がイスラエルの子たちをエジプトの地から連れ出したとき、彼らを仮小屋に住ませたことを、あなたがたの子孫が知るためである。**A** 過越の祭りが表徴するのは、法理的な面における神の贖いの開始としてのキリストです。仮庵の祭りが表徴するのは、有機的な面における神の全き救いの完成としてのキリストです。**B** 神が仮庵の祭りを設立したのは、父祖たちが荒野でさまよっている間にもどのように天幕(幕屋)の中に住んだかを、イスラエルの子たちが記念するためです。仮庵の祭りという名称の「仮庵」という言葉は、記念の思想を暗示します。**C** この祭りのために彼らが共に来て神を礼拝し、良き地の産物を享受することは、ブレンディングの真の絵です。**D** 仮庵の祭りの実際は享受の時であり、私たちがどのように神を経験したか、神がどのように私たちと共に住んだかを記念することです。**E** 今日私たちがキリストを仮庵の祭りとして享受し、ブレンディングのために団体的に共に来て、良き地の産物としてのキリストの豊富を享受することは、私たちがまだ荒野におり、永遠の幕屋である新エルサレムの安息の中へと入る必要があることを思い起こさせます。**F** 新エルサレムが神の幕屋と呼ばれるのは、第一の段階における新エルサレムの勝利者たちが、どのように彼らも天幕に住み、地上で旅人また寄留者として生き、永遠の幕屋、神が建てた都、神と人の相互の住まいを待ち望んだかを記念するためです。**1** 私たちはアブラハムの信仰の足跡を歩こうとするなら、祭壇と天幕の生活をし、キリストを私たちの命とし、召会を私たちの生活としなければなりません:**創12:7** エホバは、アブラムに現れて言われた、「私はあなたの子孫に、この地を与える」。アブラムは、彼に現れたエホバのため、そこに祭壇を築いた。**8** 彼はそこからベテルの東の山に進んで、天幕を張った。西にベテル、東にアイがあった。そして彼はエホバのため、そこに祭壇を築いて、エホバの御名を呼び求めた。**a** 祭壇を築くことは、私たちの生活が神のためであること、神が私たちの命であること、私たちの生活の意義が神であることを意味します。**b** アブラハムが天幕に住んだことは、彼がこの世に属しておらず、地上で寄留者の生活をしたことを証しました。天幕を立てることは、私たちがこの世に属していないこと、別のふるさとに属していることの表示、宣言です。**2** 私たちはアブラハムの

真の子孫として、地上で旅人となり、彼が行なったように移住し、私たちの天幕を張るべきです。**3** アブラハムは彼の第一の祭壇を築いた後、ベテルとアイの間に第二の祭壇を築きました。ベテルとアイは互いに相対しています。**a** 「ベテル」は「神の家」を意味し、「アイ」は「崩壊の堆積」を意味します。**b** 召された者の目に、ベテル、召会生活だけが価値のあるものです。他のあらゆるものは崩壊の堆積です。**4** アブラハムには失敗があり、祭壇と天幕を放棄しました。しかしながら、彼には回復がありました。回復とは、祭壇と天幕に戻って主の御名を呼び求めるという事柄です。**5** 最終的に、ヘbronでアブラハムの天幕は、彼が神と交わりを持った場所、また神が彼と交わることができた場所となりました。**6** アブラハムの天幕と彼が築いた祭壇は、イスラエルの子たちが建造した証しの幕屋と祭壇の予告でした。**7** アブラハムは他国人また寄留者であり、「土台のある都を熱心に待ち望んでいた…その設計者と建築者は神です」(**ヘブル11:10**)。**8** アブラハムの天幕は、新エルサレムの縮図でした。新エルサレムは、究極の天幕、神の究極の幕屋です。**9** 私たちは召会生活の「天幕」の中で生きているとき、その究極的な完成、究極の「集会の天幕」、新エルサレムを待ち望んでいます。**G** 仮庵の祭りは新エルサレムの享受です。新エルサレムは勝利者への褒賞として、まず王国における初穂として完成され、そして最終的に、すべての成就された信者たちの神の全き救いの完全な享受として、新天新地において完成されます。**11** キリストは最後のアダムとして、彼の復活を通して、また彼の復活の中で、命を与える霊と成って、命を分け与え、彼の信者たちの中へと入って、生ける水の川々として流れ出ました **ヨハネ7:39** イエスはこれを、彼の中へと信じる者たちが受けようとしているその霊について言われたのである。まだイエスの栄光が現されていなかったため、その霊はまだなかったからである。**A** 命を与える霊は、究極的に完成された霊、手順を経て究極的に完成された三一の神の究極的完成です。**1** 究極的に完成された霊は、肉体と成ること、人の生活、十字架、復活の過程を経過した後の三一の神です。**a** 三一の神がその霊と成るために経過した過程は、エコノミー上の事柄であって、本質上の事柄ではありません。**b** 「手順を経て」は、三一の神が神聖なエコノミーにおいて経過した段階を指しています。「究極的に完成された」は、手順が完了したことを示しています。「究極的に完成された霊」は、神の霊が手順を経て、究極的に完成された霊と成ったことを暗示しています。**2** 主イエスが十字架につけられ、復活させられる前、究極的に完成された霊は「まだなかった」のです:

a 神の霊は初めからありましたが、「キリストの霊」(ローマ8:9)としてのその霊、「イエス・キリストの霊」(ピリピ1:19)としてのその霊は、ヨハネ7:39の時には「まだなかった」のです。なぜなら、まだ主イエスの栄光が現されていなかったからです。**b** 主イエスは復活させられた時、彼の栄光が現されました。このように栄光を現すことを通して、神の霊は、肉体と成って十字架につけられ復活させられたイエス・キリストの霊と成りました。**c** 最後のアダム、肉体におけるキリストは、復活において命を与える霊と成りました。その時から、イエス・キリストの霊は、神聖な要素と人に属する要素の両方を持っており、キリストの肉体と成ること、十字架、復活の実際を含んでいます。**3** 御子は復活の中で、究極的に完成された霊を聖なる息として、弟子たちの中へと息吹き込みました: ヨハネ20:22 彼らの中に息を吹き込んで言われた、「聖霊を受けよ。」**a** ヨハネが啓示しているのは、キリストが肉体と成って神の小羊となったこと、復活の中で命を与える霊と成ったことです。こうして、彼は復活の中で、ご自身を究極的に完成された霊として、弟子たちの中へと息吹き込みました。**b** 彼はその霊として、弟子たちの中へと息吹き込まれました。彼はその霊として、弟子たちの中に生きることができ、また弟子たちは彼によって、彼と共に生きることができます。彼はその霊として、弟子たちの中に住むことができ、また弟子たちは彼の中に住むことができます。**c** ご自身を弟子たちの中へと息吹き込んだキリストは、命を与える霊です。**B** 命を与える霊は複合の霊であり、それは複合の油塗る膏油とその各種の成分によって予表されています: 出30:23 「あなたはまた、最も良い香料を取りなさい。すなわち、流れる没薬五百シケル、かおり高い肉桂をその半分、すなわち二百五十シケル、におい菖蒲二百五十シケル、24 桂枝五百シケルを聖なる所のシケルで取り、またオリーブ油一ヒンを取りなさい。1ヨハ2:20 あなたがたは聖なる方から油塗りを受けているので、あなたがたすべては知っています。**1** オリーブ油は、神性を伴う神の霊を表徴します。**2** 没薬は、キリストの尊い死を表徴します。**3** 肉桂は、キリストの死の甘さと効力を表徴します。**4** 菖蒲は、キリストの尊い復活を表徴します。**5** 桂枝は、キリストの復活の駆逐する力を表徴します。**c** 命を与える霊は、主なる霊、霊なるキリストです。それは信者たちを新陳代謝的に造り変えて、キリストのからだを成長させ建造するためです。**D** 正常なクリスチャン生活は、私たちがその霊を認識し経験することにかかっています。キリストが命を与える霊でなければ、私たちが神のエコノミーにおいて神のいかなるものも経験することができません。

CP1 神のエコノミーの焦点である召会生活を第一とし、信仰によって祭壇と天幕の生活をすることは、真に祝福された生活である

I 私たちはキリストを仮庵の祭りとして享受することができます **A** 過越の祭りが表徴するのは、法理的な面における神の贖いの開始としてのキリストです。仮庵の祭りが表徴するのは、有機的な面における神の全き救いの完成としてのキリストです。**B** 神が仮庵の祭りを設立したのは、父祖たちが荒野でさまよっている間にどのように天幕(幕屋)の中に住んだかを、イスラエルの子たちが記念するためです。仮庵の祭りという名称の「仮庵」という言葉は、記念の思想を暗示します。**E** 今日私たちがキリストを仮庵の祭りとして享受し、ブレンディングのために団体的に共に来て、良き地の産物としてのキリストの豊富を享受することは、私たちがまだ荒野におり、永遠の幕屋である新エルサレムの安息の中へと入る必要があることを思い起こさせます。**F** 新エルサレムが神の幕屋と呼ばれるのは、第一の段階における新エルサレムの勝利者たちが、どのように彼らも天幕に住み、地上で旅人また寄留者として生き、永遠の幕屋、神が建てた都、神と人の相互の住まいを待ち望んだかを記念するためです: ヘブル11:9 信仰によって、彼は他国の地にいるように、他国人として約束の地に住み、同じ約束の共同の相続人であるイサクとヤコブと共に、天幕に住みました。10 なぜなら、彼は土台のある都を熱心に待ち望んでいたからです。その設計者と建築者は神です。1 私たちはアブラハムの信仰の足跡を歩こうとするなら、祭壇と天幕の生活をし、キリストを私たちの命とし、召会を私たちの生活としなければなりません。**a** 祭壇を築くことは、私たちの生活が神のためであること、神が私たちの命であること、私たちの生活の意義が神であることを意味します。**b** アブラハムが天幕に住んだことは、彼がこの世に属しておらず、地上で寄留者の生活をしたことを証しました。天幕を立てることは、私たちがこの世に属していないこと、別のふるさとに属していることの表示、宣言です。**4** アブラハムには失敗があり、祭壇と天幕を放棄しました。しかしながら、彼には回復がありました。回復とは、祭壇と天幕に戻って主の御名を呼び求めるという事柄です。**5** 最終的に、ヘブロンでアブラハムの天幕は、彼が神と交わりを持った場所、また神が彼と交わることができた場所となりました。**9** 私たちは召会生活の「天幕」の中で生きているとき、その究極的な完成、究極の「集会の天幕」、新エルサレムを待ち望んでいます。**G** 仮庵の祭りは新エルサレムの享受です。新エルサレムは勝利者への褒賞として、まず王国における初穂として完成され、そして最終的に、すべて

の成就された信者たちの神の全き救いの完全な享受として、新天新地において完成されます。

適用:ビジネスパーソン編

証新約のクリスチャンである私の生活は、アブラハムのように祭壇と天幕の生活であることを証します。私は大学1回生の5月に救われました。それから直ぐに、召会生活を始め、ブラザーズハウスに住みました。卒業後は、実家のある松山に帰るか、徳島に留まるかのどちらかで、田舎育ちの私は、四国を出る気持ちはありませんでした。しかし、導いている兄弟たちの勧めで東大阪にある大学の大学院に進学し、大阪で召会生活をしました。それは、大阪市という大都市にある主の証を強めるためでした。修士課程修了後、全時間奉仕を始め、その後、2年間の台北全時間訓練を経過して、大阪に戻り更に1年半、全時間奉仕をしました。訓練後の奉仕を通して、召会の人数は40人弱から80~100人になりました。その時、私は大阪から近隣の比較的大きな都市に移住する負担を持ち始めましたが、環境が許さなかったため、全時間奉仕を中止し、働き始めました。その1年半後、主は私をビジネスパーソンとして、神戸市に遣わしてくださいました。私が勤めていた医薬品・医療機器の業界は、1985~2010年の間、M&A(企業買収)が非常に盛んで、私が勤めていた部署や会社で、3回M&Aを経験しました。ほとんどの大手会社は東京に移ったので、私は転職支援会社から、東京にある会社に転職するように何度も強く勧められました。しかし、継続して神戸にある召会を顧みるために、私は関西に留まりました。また、私は世界最大手の医療機器会社の日本法人に勤めていた時、米国本社のNo.3の役員に東京本社に移り、ある部門の全体の責任者になるように勧められました。いくら断っても、会社の上司を通して、そのことを強く勧めてきたので、最終的に会社にいらなくなり、2011年に別の大阪の会社に転職しました。主はその会社での私の業績を著しく祝福されたので、2016年10月に、米国本社の役員となることを提示されました。しかし、私は神戸での召会生活のゆえに、直ぐに断りました。その人は、私が理解していないと思い、再度、彼らが用意したすばらしい案件を私に提示しましたが、私は明確に断りました。

これらを経過する中で、主は私の牧者であり、私がアブラハムの信仰の足跡に従って、祭壇と天幕の生活(神と交わり、神を命とし、神のために生きる生活と召会生活)をすべきことをリマインドしてくださいました。私はその都度、次のように祈りました、「お主イエスよ、私の罪、弱さを赦してください。あなたのリマインドにより、私は(祭壇と天幕の生活に)回

復され、戻されました。私の人生を再度あなたに捧げます。私はこの世の中で旅人であり、召会生活をしながら、王国の出現における新エルサレムを待ち望んでいます。主よ、最後まで、前進する(祭壇と天幕の生活を維持する)力を私に与えてください」。

神のエコノミーの焦点である召会生活を第一として生活することは、この世の通常の歩みと異なります。目に見えるものに頼らず、信仰によって祭壇と天幕の生活をすることは真に祝福された生活です。

CP2命を与える霊は複合の霊であり、私たちを新陳代謝的に造り変えて、キリストのからだを成長させ建造する

IIキリストは最後のアダムとして、彼の復活を通して、また彼の復活の中で、命を与える霊と成って、命を分け与え、彼の信者たちの中へと入って、生ける水の川々として流れ出ましたヨハネ7:37 祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って叫んで言われた、「だれでも渇く者は、私に来て飲むがよい。38 私の中へと信じる者は、聖書が言っているように、その人の最も内なる所から、生ける水の川々が流れ出る」。39 イエスはこれを、彼の中へと信じる者たちが受けようとしているその霊について言われたのである。まだイエスの栄光が現されていなかったため、その霊はまだなかったからである。**A**命を与える霊は、究極的に完成された霊、すなわち手順を経て究極的に完成された三一の神の究極的完成です。**B**命を与える霊は複合の霊であり、それは複合の油塗る膏油とその各種の成分によって予表されています:出30:23 「あなたはまた、最も良い香料を取りなさい。すなわち、流れる没薬五百シケル、かおり高い肉桂をその半分、すなわち二百五十シケル、におい菖蒲二百五十シケル、24 桂枝五百シケルを聖なる所のシケルで取り、またオリーブ油一ヒンを取りなさい。1ヨハネ2:20 あなたがたは聖なる方から油塗りを受けているので、あなたがたすべては知っています。1オリーブ油は、神性を伴う神の霊を表徴します。2没薬は、キリストの尊い死を表徴します。3肉桂は、キリストの死の甘さと効力を表徴します。4菖蒲は、キリストの尊い復活を表徴します。5桂枝は、キリストの復活の駆逐する力を表徴します。**C**命を与える霊は、主なる霊、すなわち、霊なるキリストです。それは信者たちを新陳代謝的に造り変えて、キリストのからだを成長させ建造するためです。**D**正常なクリスチャン生活は、私たちがその霊を認識し経験することにかかっています。キリストが命を与える霊でなければ、私たちは神のエコノミーにおいて神のいかなるものも経験することができません。その霊は神聖な成分をもって私たちに浸透する生ける証印です。私たちはこのように祈らなけ

ればなりません、「主よ、一度だけでなく、いつも私に浸透してください。私はあなたの証印が必要です。私はあなたの浸透が必要です」。

適用:青少年・学生、新人編

証1私は、朝ごとの復興は毎朝できていたものの、平日は仕事に追われ、週末は家事と子育てに追われて、ほとんど聖書通読をできない状態でした。そんな時に姉妹から、忙しくても通勤の時間に聖書を読めるのではないかと励まされました。通勤電車はかなり揺れるし、携帯画面をジッと読むと気分が悪くなるのではないかとい不安がありましたが、からだからの交わりに従う方が良いという感覚があり、行きは新約聖書を、帰りは旧約聖書を読むことにしました。それまでは、仕事を終えた後は体が疲れ切って、駅から家まで歩くのも辛いと感じることが多かったのですが、聖書を読んで駅に降りたら、ビックリするほど元気でした。体が疲れたと思っていたのですが、実は心が疲れた結果、体が疲れていたのだと気付かされ、同時に、御言葉は疲れから解放を得る最上の道であることを実感しました。更に、会社に着く少し前まで聖書を読んで御言葉を味わうことで、仕事においても御言葉に導かれて前向きに対処できることを度々経験しました。主の言葉は心と体を癒やすだけでなく、前進する真の力でした！御言葉と兄弟姉妹を通じて、日々、豊かな語りかけと油塗りを享受できる道を主が開いてくださったことを感謝します。

証2高一の夏休みに一ヶ月間兄弟姉妹と一緒にアメリカのサマースクールに参加してきました。初めてアメリカに行った私は最初とても興奮して、行く前からずっと楽しみにしていたディズニーランドやシーワールドなどへ遊びに行き、海にも泳ぎに行つて、とても綺麗な景色のところでバーベキューもしました。外側を見るととても満喫していたはずですが、なぜか私の内側に満足はありませんでした。ある日ホームステイの家で寂しく感じ、ホームシックになって、泣き出しました。その時、同じホームステイの家で泊まっていたある姉妹が私を見て、「公園に行きましょう」と誘ってくれて、とても広い公園で大きな声で主の名を呼びました。「Oh, Lord Jesus! Oh, Lord Jesus! Oh, Lord Jesus!」と30分間主の名を呼びました。その時初めて、内側に生ける水の川が流れていると感じ、内側は主で満たされ、寂しい感覚がなくなり、真の満足を得ることができました。この世の水を飲んでもまた渴きますが、主が与える生ける水を飲むときに、内側の渴きが癒され、真の喜び、満足を得ることができました。ハレルヤ！キリストは命を与える霊となりました。私が霊を活用する時に、常に油塗りがあり、複合の霊のす

べての成分が私に供給されます。アメリカから帰つて来た後も、主と交わる習慣をたて上げることができるようになって、学校に行く時、お風呂に入る時、テストの前、親と喧嘩した後などで、主に祈るようになりました。主の名を呼び、詩歌を歌い、御言葉を祈り読みすることで、主で浸透され、キリストの死の殺す力とキリストの復活の力を何度も経験しました。**祈り**おお主イエスよ、あなたは復活を通して、また復活の中で命を与える霊となりました。私が霊を活用するなら、常に油塗りがあり、複合の霊のすべての成分が私に供給されます。生活のあらゆる場面であなたの名を呼び、詩歌を歌い、御言葉を祈り読みして、あなたで浸透され、あなたの死の殺す力と復活の力を経験します。

神戸に在る教会交わりと報告事項

1. 福音集会の順番:

11/3: 魚崎・六アイ、11/10: 夙川、11/17: 神戸、11/24: YP(本山)、12/1: 三宮、12/8: 本山南、12/15: 六甲、12/22: YP(王子公園)、12/29: 合同@魚崎

2. **11/1-7台湾訪問:** 総数59名が参加します。神戸22名、大阪21名、徳島15名、東大阪1名。この訪問が祝福されますように。

3. 11月のスケジュール:

- 11/1-7 台湾訪問
- 11/9 松下B・宋S結婚集会@京都
- 11/16 Bookフェア@東大阪
- 11/20-25 ニュージーランドのBS神戸訪問
- 11/23 関西・四国・東海BLD集会@魚崎